



三菱マテリアル株式会社、欧州における二次原料製錬所の新設と

100%タングステンリサイクル目標を発表

- EU 重要原材料法及び循環型経済法を直接的にサポート -

東京／アムステルダム－三菱マテリアル株式会社（執行役社長：田中 徹也、以下「三菱マテリアル」）は、資源循環（リサイクル）のグローバル展開を中核成長軸とする新たな中期経営戦略（2026～2028 年度）を発表しました。

三菱マテリアルは欧州に二次原料製錬所の新設を計画中であり、これにより欧州における電気電子廃棄物（WEEE）原料をはじめとする再生原料の処理量が大幅に増加する見込みです。同製錬所では、電気電子廃棄物原料の精製向けに特別に開発され、かつ継続的に最適化された、実績・信頼性のある業界最先端の二次製錬技術を採用します。

三菱マテリアルヨーロッパ B.V.（以下「MMEU」）による欧州二次原料製錬所建設プロジェクトの概要：

- 候補地：オランダまたは欧州内のその他地域（検討中）。
- MMEU が推進する新製錬所は、欧州域内でのクローズドループ資源循環を実現します。欧州で回収した二次原料を欧州で処理し、再生金属を欧州の顧客に供給する機会を提供します。
- 生産能力、投資額、及び正確な時期は現在検討中です。

並行して、三菱マテリアルは 2030 年度までにタングステンのリサイクル率*100% を目標としており、欧州の H.C. Starck 社施設における再生タングステン処理量を 1.5 倍に拡大するとともに、欧州に新たな独自のタングステンリサイクルルートを構築します。

*三菱マテリアルグループのタングステン製品製造拠点(中国拠点を除く)におけるリサイクル原料の使用比率

EU 重要原材料法（以下「CRMA」）及び循環型経済法との強い整合性。これらの二つの取り組みは、EU 重要原材料法の核心的目標に直接貢献します。

- 銅及び CRMA の掲げる戦略的原材料の EU 域内におけるリサイクル能力の大幅な拡大。
- タングステン（附属書 II の 34 の戦略的原材料の一つ）の 100%リサイクル達成。
- CRMA 第 19 条に基づく戦略的プロジェクトとしての認定取得（これにより迅速な許可取得と EU 単一市場での資金調達の可能性が開かれます）。
- 三菱マテリアルグループの MEX デジタルプラットフォームを通じた完全なトレーサビリティと CRMA 準拠認証の提供。

次世代二次原料製錬所の建設により、欧州の都市鉱山（E-Scrap など）をリサイクルするクローズドループシステムを構築します。これは、100%タングステンリサイクルの目標と合わせて、EU の戦略的自律性と循環型経済目標に対する企業による最も具体的な産業貢献の一つとなります。

欧州でのプロジェクトは、2035 年度までに E-Scrap の処理能力を倍増させ、金属調達の大部分を一次鉱山からリサイクル資源へ転換するというグローバルな取り組みの一環です。

三菱マテリアルは、世界をリードするリサイクル技術を通じ、「人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する」というコミットメントのもとで、資源循環による未来の創造に取り組んでまいります。

www.mmc.co.jp/corporate/ja/